検証内容（けんしょうないよう）

ベビラボのプロジェクトでは、多くの赤ちゃんにご協力いただき、成長に従いどんなことができるようになるのか検証しています。
例えば、赤ちゃんは５～６ヶ月から表情の区別ができるようになりはじめますが、悲しい顔については７～８ヶ月になって区別がつくようになります。ベビラボは、このような検証結果を、“赤ちゃんが分かる刺激と遊び”としておもちゃに取り入れることで、赤ちゃんの好奇心を引き出し、脳を育み※ます。

※BabyLaboは、「好奇心を引き出し、遊びながら感じ、考えること」を脳を育むと考えています。

視覚

Step3 ねがえりの頃～ 5~6ヶ月

★普通顔とさまざまな表情の区別がつきはじめる

★8×8と24×24のチェッカーボードを区別できる

★ぐるぐる模様を好む

Step4 はいはいの頃～ 7~8ヶ月

★悲しい顔を区別できる

Step5 つかまり立ちの頃～ 8~11ヶ月 / Step6 たっちの頃～ 12~15ヶ月

成長にともない、見分けられるようになっている

★最初は2色の顔とカラーの顔では
カラーの顔に注目する傾向がある

★見慣れるとモノクロの顔とカラーの顔では
モノクロの顔に注目する傾向がある

★にっこり顔とびっくり顔ではびっくり顔に
注目する傾向がある

★にっこり顔とやられ顔ではやられ顔に
注目する

※より詳しい検証の内容は、ベビラボホームページ（http://babylabo.jp）をご覧ください。
※上記の月齢はあくまでも目安です。成長には個人差があるため、成長にあわせてあせらず見守ってあげましょう。
※表情認知は検証用の普通顔とキャラクター設定上のさまざまな表情の顔を比較した実験を行っております。検証用の普通顔は商品には含まれておりません。

月齢	カテゴリー	赤ちゃん研究で明らかになった赤ちゃんの発達
6	数	6~9ヶ月の赤ちゃんは種類の異なる物の集まりについて、2個か3個かの違いがわかる。 また、聞いた音の回数と見た物の個数の対応づけもできる。
6.5	視覚	上下に積まれた箱を見たとき、6.5ヶ月の赤ちゃんは上と下の箱の重心がずれていると落ちると理解できる。さらに10ヶ月になると、ずれていなくても下の箱の幅が狭くて不安定なときには落ちやすいというバランスの概念を持っている。
9	手・視覚	9ヶ月頃から、掴もうとしている物の大きさに合わせて、あらかじめ手の広げ方を変えられるようになる。 13ヶ月になると、大人と同じように物に届く前に物の大きさに合わせて手を閉じ始めるようになる。
	手・視覚	赤ちゃんは9~11ヶ月でつまむことができる。
30	数の概念	2.5才になると、カウンティングがある程度でき始める。（※）しかし、数えて個数を理解したり、指定された個数の物を取り出したり、そこにある最大の数を答えたりするのは約3.5才以降である。 ※2.5才児がカウンティングを求められたとき、物だと50%程度、出来事だと33%程度、動作だと25%程度、音だと20%程度の割合でできる。
―	言語	マザリーズ（お母さん語）で話した方が普通に話すよりも単語を聞き取りやすい。 マザリーズ（お母さん語）とはお母さんが赤ちゃんに向かって話す特有の話し方であり、ゆっくりと、高音で、長い区切りで、単純な文構造などである。

※上記の月齢はあくまでも目安です。成長には個人差があるため、成長にあわせてあせらず見守ってあげましょう。

詳しくは、ブロックラボ ホームページへ（http://block.bandai.co.jp/）　※達成率は、最後まで作品例を完成することができたお子様の割合を指します。

遊び方（あそびかた） ステップに合わせていろんな遊びにチャレンジ！

8ヶ月ごろ～

①カップを両手で持ってみよう！

小さいカップをそれぞれの手で上手に持てるかな？ ２つのカップを両手で持って遊んでみましょう。

②アンパンマンいないいないばぁ！

大きなカップをアンパンマンにかぶせて「いないいない、、アンパンマン！」と言いながら、パッとカップを取って見せてみてください。赤ちゃんはどんな反応をするでしょう？

③上手に乗せられるかな？

カップを２つ選んで大きなカップの上に小さなカップを乗せてみましょう。
最初はご家族の方がお手本を見せて、赤ちゃんが上手にできたらしっかりとほめてあげましょう。

④指先でたくさん遊んでみよう！

カップには縦向き、横向き、両手、片手など、いろんな種類のツマミがついています。指先で上手にカップをつまんで遊びながら指先の練習をしてみましょう。

12ヶ月ごろ～

⑤次はどのお顔かな？

カップをさかさまにかさねて、赤ちゃんに顔の面を見せながら「次はどんなお顔かな～？」と言いながら1つずつとってみましょう。慣れてきたら「1、2、3」と数えながらとってみましょう。

⑥同じお顔を探してみよう！

カップの天面には上に乗せるカップの側面に描かれているのと同じお顔が描かれています。
お顔を手がかりに上に乗せるカップを探せるかな？

18ヶ月ごろ～

⑦カップをたくさんつめるかな？

カップの絵柄がつながるようにかさねて赤ちゃんに見せてみましょう。
最初は２個から、３個、４個と少しずつチャレンジ！
全部つめたら大きなタワーが完成！

⑧お帽子をかぶせてみましょう。

アンパンマン人形の頭に小さなカップを乗せて「アンパンマンがお帽子かぶってるよ！かわいいね～」と見せてみましょう。
「○○ちゃんもかぶせられるかな？」と上手に誘ってみましょう。

安全への取り組み 〈バンダイの品質基準は約350項目〉

バンダイでは、「安全で安心できる製品作りに徹し、世界のお客さまから信頼と満足を得られる商品を提供する」ことを方針に掲げ、品質保証の取り組みを進めています。

材料の安全

デリケートな赤ちゃんがさわったり、なめたりした際に危険な材料は使用しないよう、製品に含まれる物質については食品衛生法などを踏まえ、厳しい自主基準を設定し検査を実施しています。

化学物質に関する項目

○ホルムアルデヒド試験　○重金属8元素試験　○着色料溶出試験　など

設計の安全

万一の事故の際にも、おもちゃが壊れて赤ちゃんに危険が及ばないように、業界が定める品質・安全基準（ST基準）などを踏まえ、さらに欧米をはじめとする諸外国の玩具安全基準（ASTM、EN-71）を積極的に取り入れています。

設計・強度に関する項目

○小さな部品の安全性確認　○引っ張り・曲げ試験　○トルク試験　○落下試験
○可動部連続耐久試験　など

⚠ 注意

保護者の方へ　必ずお読みください。

- ●保護者のもとで遊ばせてください。
- ●安全のため、破損、変形したおもちゃは、使用しないでください。
- ●ぶつけたり、ふりまわすなど乱暴な遊びをしないでください。

おとなといっしょ

《使用上の注意》

- ●プラスチック梱包材は、開封後はすぐに捨ててください。
- ●コップとして使用しないでください。

★セット内容
人形…1個、
カップ…5個、
取扱説明書・遊び方冊子(本誌)…1枚

<ベビラボ共同開発> 株式会社 日立製作所
<検証協力> 5〜8ヶ月:玉川大学 赤ちゃんラボ
　　　　　　8〜15ヶ月:京都大学 発達科学研究室
<赤ちゃんの発達 作成協力> 中央大学 研究開発機構

≪電話受付先≫　バンダイお客様相談センター
〒277-8511　柏市豊四季241-22
ナビダイヤル　0570-041-101
●受付時間 10時〜17時（祝日、夏季・冬季休業日を除く）
PHS、IP電話等をご利用の方は04-7146-0371におかけください。

≪商品・修理品送付先≫
バンダイ　栃木修理・配送センター
〒321-0298　栃木県下都賀郡壬生町おもちゃのまち5-4-67
●営業時間 10時〜17時（土、日、祝日、夏季・冬季休業日を除く）
電話番号はお客様相談センター共通

発売元　株式会社バンダイ
東京都台東区駒形1-4-8 〒111-8081

取扱説明書・遊び方冊子

ベビラボってなに?

目指したのは、赤ちゃん満足度No.1!

ベビラボは**バンダイ**と**日立製作所**の
共同プロジェクトで赤ちゃんを研究して生まれました。

さまざまな検証で確認された、
赤ちゃんが“分かる”より良い刺激と遊びがいっぱいだから、
遊びながら赤ちゃんの好奇心を引き出します。

赤ちゃんが本当に“分かる”おもちゃだから夢中になれる。
赤ちゃんの笑顔が、ママの笑顔に。
ママの笑顔が、赤ちゃんの笑顔に。

これがベビラボの考える、おもちゃの重要な役割です。

赤ちゃんの時期に、成長に応じたより良い刺激と遊びを用意してあげることがとても大切です

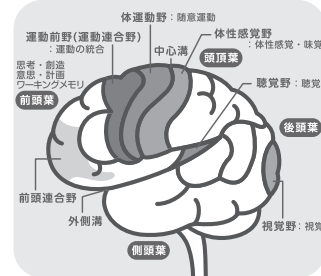
赤ちゃんは様々な可能性を持って生まれてきます。
赤ちゃんには、スポンジが水を吸収するように様々な能力を獲得してゆく期間があります。この時期には、成長にあわせたより良い刺激と遊びを用意してあげることが非常に重要です。
ベビラボのおもちゃには検証結果を取り入れた「成長に応じて赤ちゃんの好奇心を引き出す刺激と遊び」が盛り込まれています。
ママ・パパが一緒に遊んであげて,より良い刺激を与えて、赤ちゃん本来の力を引き出してあげることが大切です。

手を繰り返し使うことで、脳内の神経同士のつながりが強化され、脳が行動・運動を学習します。

手を使ってどのような行動をするかは、脳の前頭葉にある前頭連合野という部分が考えて計画を立て、運動前野(運動連合野)という部分に伝え、運動前野がどのように手と指を動かすかを決めて、体運動野という部分に伝え、体運動野が運動の実行指令を出しています。

この脳の各部のはたらきは、手の行動や運動を繰り返し行うことで、できるようになります。手の行動や運動を繰り返すことで、脳内の神経同士のつながりが強化され、脳が行動や運動を学習します。

また手の基本的な使い方をマスターしておくと、他の運動を学習する時にもそのときに作られた神経回路網が働き、学習を助けてくれます。

脳は場所により分業して働いています

（小泉英明編著「育つ・学ぶ・癒す脳図鑑21」工作舎より）

詳しくは ベビラボ ホームページへ （http://babylabo.jp）

それいけ!アンパンマン

※取扱説明書の画像と商品とは、多少異なりますのでご了承ください。